

令和6年度 第1回 高山市総合教育会議 議事録

【日 時】 令和6年9月13日（金） 15時～17時

【場 所】 高山市役所 4階 特別会議室

【出席者】（構成員）	高山市長	田中 明
	教育長	見山 政克
	教育長職務代理者	長瀬 信
	教育委員	野崎 加代子
	教育委員	白田 美樹
	教育委員	桑谷 康弘
	教育委員	丸山 千絵

（構成員以外の出席者）

総合政策部長、教育委員会事務局長、市民活動部長、こども未来部長、医療保険部長、商工労働部長、総合政策課長、若者・女性活躍推進担当監、教育総務課長、学校教育課長、文化財課長、こども政策課長、こども家庭センター長、総合政策課係長、総合政策課係員

【会議内容（次第）】

- ・市長あいさつ
- ・教育長あいさつ
- ・議題

（1）教育大綱の推進に向けた取組みについて

令和5年度・令和6年度の主な取組 資料1

（2）こども計画（仮称）の策定に向けて 資料2

（3）義務教育学校「荘川さくら学園」開設に向けて 資料3

（4）その他 ※非公開 資料4

【議事要旨】

総合政策部長 それでは、議題に入ります。高山市総合教育会議運営規程第3条の規定により、議長は市長が務めることとしていますので、進行を田中市長にお願いします。

市長 議題（1）教育大綱の推進に向けた取組みについて、事務局から説明をお願いします。

総合政策課長 （資料1を説明）

市長 ただいまの内容について、質問等がありましたらお願いします。

桑谷委員 13ページ84番大学連携の推進について、普段どこまで把握しているのか確認したいです。私が経営している企業と大学が連携して行った事業の報告はされていますか。新聞にも載りましたが把握はしていますか。

総合政策課長 申し訳ございません。把握しておりません。

桑谷委員 昨日の中日新聞に載っています。名古屋経済大学と連携して、臨時スーパーを開き高齢者への聞き取りを行ったものです。事業が完了した際には大学連携センターから報告はありますか。

総合政策課長 大学連携センターとは定期的には打ち合わせの機会を設けて報告を受けています。

桑谷委員 名古屋経済大学とは4月からやり取りを続け、自社で仕入れをして店舗を貸して、9月10日に販売と買い物難民等の聞き取りを行いました。調査結果が12月の学会での発表に繋がると思いますが、終了時に何らかの報告があるのではないかと思います。名古屋経済大学とは4年間かけてやってきており、新聞に載った時点で市側でチェックし把握する必要があると思います。それすらしていないというのは大学連携推進事業をしていく上でいかななものかと思います。あえて聞きましたが実態がよくわかりました。

総合政策部長 具体的な事例について把握しておらず申し訳ありませんでした。大学連携センターとの情報共有については、どのような連携があったかということや、大学生にどれだけ訪問いただいたかという数字等は1ヶ月毎に把握しています。今後は具体的な情報も共有できるような仕組みを考えていきたいと思っています。新聞も読んでいるつもりでしたが見逃していました。早速確認いたします。申し訳ありませんでした。

市長 コミッション事業以外で市民の方や市内事業所の方に協力を得て実施していることについては、その都度報告をもらうよう大学連携センターに伝えてください。

長瀬委員 2点質問します。1点目は人材確保や人材育成についてです。この問題はどの課においても共通する大きな課題の一つだと思います。学校教育課では人材確保の難しさが具体的な形で出ていました。10ページ69番のスクールサポートスタッフの配置、そして16ページ103番の部活動指導員の配置は募集人員の充足がされていませんでした。学校教育課の例を見るまでもなく、人材確保型やそれに関連する人材育成は今後ますます厳しく難しい状況になっていくことが予想されます。そのためにも各課が共通課題として危機意識を持って連携し、それぞれが持っているノウハウを共有し取り組んでいく必要があるのではないかと思います。この資料1は各課が担当し作成していると思いますが、資料に落とし込めていないけど、実はこんなこともやっています、あるいはこんな取り組みをしてこんな成果があるというようなことがあれば、ノウハウの共有としてこの機会に紹介すると

良いと思います。

2点目は、高等学校や特別支援学校との関係についてです。現在第九次総合計画やこども計画、あるいは教育振興基本計画の策定期間にあたっていますが、改めて今まで以上に高等学校にスポットを当ててほしいと思います。13ページ、14ページには高等学校や高校生との関わりが載っていますが、以前と比べると関わり方が増えていることを実感しますし、資料などでも状況はわかります。それでもまだ十分ではないと思っています。それは市の様々な課題を解決していくキーパーソンの1人が、私自身は高校生だと思っているため、まだ足りないと思っています。そのために、押さえておきたいことが3つありますので考えていただければありがたいです。1つ目は、若者という言葉でひとくくりにしないうで意識的に高校生という言葉を使っていくことです。それから2つ目は、高等学校や特別支援学校は設置者が違います。設置者が違いますが、その高等学校との関係をこれまでの連携という考え方ではなく、一步踏み込んだ融合という考え方のもとでさらに関係を深化していくことが大事ではないかと思っています。というのも、高校生も高山市の市民として活躍しており、同じように連携云々ではなく高山市民の1人であるという捉え方の中で融合という考え方を持つ必要があるのではないかと考えています。そのためには、設置者が違うため高等学校等とは十分な意見交換が当然必要になります。3つ目は、一部の高校生の活動をもって高等学校等との関係を評価するのではなく、より多くの高校生が参画できるような施策をさらに検討していくことも大事だと思います。いずれにしても中学生から一段と成長した高校生が地域の一員としてさらに成長し、地域の担い手としてさらに活躍してくれるためにも、これまで以上に高等学校あるいは高校生との関係を深めていく必要があるのではないかと考えています。

学校教育課長 人材育成について、新規採用教職員の人材育成として教育委員会のもとで地元根ざした新規採用職員研修を毎年2回ないし3回行っています。地元出身ではない教職員もいるため、地元の魅力を学んでもらいそれをこどもたちに還元していけるような人材を育成しているところです。2つ目の高校生との連携については、管轄は県の教育委員会になりますが、高校生によるプレ教育実習として中学生と高校生との交流事業を行っています。教育委員会や校長会と連携し、高校生の頑張りと努力を中学生にも理解させ、またその憧れを中学生から高校生に繋がるように伝えているところです。

商工労働部長 産業全般の人材不足についてお話しします。全国的に人材不足であるため、Uターンや移住の促進、労働時間の短い短期労働人材や外国の方の活用といった人材を確保する取り組みを進めると同時に、今いる人材をいかに定着させていくか、働きがいややりがいを持って働き続けていただくための取り組みも進めているところです。そのための取り組みとして、市内で働く3年目ぐらいまでの若手社員を対象とした分野を超えた交流会とセミナーを今年度実施しました。横の繋がりを作り、高山で一緒に働いている仲間として意識していただくような取り組みも行っています。

若者・女性活躍推進担当監 高校生はとても大切な存在だと思っています。昨年度から特に高校生や若

者との意見交換などに力を入れて取り組んできました。長瀬委員のおっしゃるように、学校とは連携だけではなく、さらに深い関係、融合というものを作れたら良いと思い、学校を回らせていただき意見交換等を行ってきました。融合を進めていけばより高校生が地元を知る機会にも繋がると思いますので、今後も力を入れていきたいと思ひますし、高校生の中でも学校として取り組むだけではなく、学校から離れたところで自主活動のような様々な活動をしている高校生もみえますので、そういった方も含めて市としてフォローしていきたいと思ひています。

長瀬委員 高等学校との関わりをさらに深くと話しましたが、お互いに無理をしだらうまいかなと思ひます。例えば市内のどの高等学校でも課題研究に取り組んでいます、小学校中学校で郷土教育に熱心に取り組んできた結果として、高校生になっても地域の課題に対して非常に前向きに取り組むことができていると思ひます。各高等学校は研究の成果発表を行っているため、例えば発表会の案内が市に来ていなければ、市の方から高山市として高校生の状況や思ひを見せてもらいたいし、理解していきたいと思ひるので案内をいただけないかと依頼する、そういうところからでも良いと思ひます。私は融合と言ひましたが、様々な形で関わりを深めていくことが大事で、さらに深めるに当たってはお互いに無理のないところでできることを探っていくことが大事だと思ひます。市の職員の方々には、高校生がこんな研究をやっている、こんな前向きな研究をやっていることを知ってもらだけでも意味があると思ひていますので、ぜひとも積極的にたくさんの市の職員の方々に成果発表を見学してもらいたいと思ひます。

市民活動部長 高校からいただいたご案内や情報については、地域の皆さんにも高校生の活動を知っていただきたいため、まちづくり協議会さんなどにもお伝えしています。役員が実際見に行かれて大変興味深かったというお声もいただいていますし、市民活動部の職員も参加しています。地域の皆さんには引き続きご案内をさせていただきます。また、まちづくり協議会の中には、中学校から地域の皆さんと課題解決に取り組み、高校へ行ってからも地域活動に引き続き繋げていくような人の繋がりをつくるといった取り組みを行っているところもありますので、そのような活動は大切にしていきたいと思ひています。

桑谷委員 高校生が非常に優秀な活動をしていることは、大学連携センターが行う飛騨高山学会において、高校生が大学生に交ざって発表もしているため知ってはいますが、市の幹部の方々が飛騨高山学会を聞きに行っているかどうか問題だと思ひます。そのような場所に足を運びどのようなことに取り組んでいるのかを実際に聞くことが大事だと思ひます。高山の高校生の研究なのか、高山出身の子が大学へ行って高山のことを研究して発表しているのか。そういった情報をしっかり捉えてもらいたいと思ひます。また、15ページ96番のインターンシップの受入事業者に対する支援について、これは大学生のインターンシップの受入れだと思ひますが、私個人としては高山でインターンシップを行うのは否定的です。高山で実施しているものは見る限り職業体験にしか思ひえません。本来のインターンシップというのは会社の問題解決というところを若者の知恵を頼って解決に向けて取り組み、そ

の結果その仕事に対する面白みを持ってもらって就職に繋げていくという流れだと思います。見ていると2、3日だけ来るといような、はたから見ても就業体験で高校生のやっていることと大して変わらないと受け取っています。また、97番の事業承継マッチング支援についてですが、この内容ならば民間でできると思いますので今後考えていかなければならないと思います。去年私の会社でひとつM&Aを行いました、この事業からではなく民間の金融機関からの紹介でした。チャンネルは多い方が良いとは思いますが、民間の方でちゃんと動いていけるのではないかと正直思いました。

市長 貴重なご意見をありがとうございます。いただいたご意見は核心を突いていると思うところがありましたので、それぞれ意識しながら改善できるものについては改善してほしいと思います。

丸山委員 何点かお伺いします。まず1つ目は保育園の入園についてです。安心して子育てをする上で入園というのはとても大事なことだと思いますが、先日ある方から訴えがありました。3人兄弟の3人目の子だけ別の保育園に秋から入ることになってしまって送り迎えが別になるのでどうしたら良いのかというものです。入園のときの配慮はどのようになっているのか不安になる材料だと思いました。

次に2つ目は2ページ8番のさるぼぼタッチについてです。アプリをダウンロードし、予防接種などの情報を受け取ることができるようにしたが、ログインできなくなりました。市役所に電話するのも悪いしどうしようという相談がありました。こういう時にどこを頼ると良いか教えてください。

次に、中学生、高校生の交通手段についてです。高校生の通学に対しては補助があるためありがたいのですが、それでも清見地区は高額で月に1万円以上はかかります。そのため親が出勤時間を遅らせて子どもを学校に送っていくこともあるため、支所地域までのらマイカーを運行することを検討してもらうことができないかという話が中学生の親たちの間で上がっています。ぜひ検討してほしいと思います。というのも、中学校の部活動がクラブに移行することでよその学校との連携が始まり、自力で行けない子どもたちが増えてきます。親同士が交代で送り迎えもしていますが、足がない子は活動できないということが起こりうると思います。行って帰ってくる時間帯にバスが1本ずつあるだけでも違うと思います。また、子どもがバスで市内に行く際、ヤングパスポートを使っても500円かかると聞きます。中学生にとって500円は大きいと思いますので、支所地域ののらマイカーの配車の仕方をもう一度見直していただきたいと思います。これは高校生だけではなく中学生の部活動の形態の変更にも関わっているため、今までのやり方と違った配慮をしてもらえるとありがたいです。

次に、1ページの4番の協働のまちづくり人材育成への支援についてです。子ども関係の部署のみなさんが支所地域に出向いてお母さん方の意見や困りごとなどをヒアリングしてくださっていますが、私が感じたのは、受け手になっているお母さんや市民の側が当事者意識を持って行動できるかというところが少し弱いのではないかと、市が進めている取り組みを市民やお母さんたちが実感できていない部分があるのではないかとということです。

私達のようにこどもの現場にいと直接お母さん方に伝えることができますが、市がこんな取り組みをしたから今こういうふうに使えているんだというようにわかりやすく伝えてあげたいなという思いがあります。

こども政策課長 1つ目の保育園の入園について、こどもの数は減少傾向にあり、それ自体を打開していかなければならないのですが、経済の回復に合わせて働く保護者が増加しています。特に年齢が低い層ほど保育士の人数がいるということで、受け入れる枠には余裕があっても、スタッフの数が足りず希望する園での受入れが難しいという状況が起きています。そのため上のお子さん2人が通っている保育園であっても、一番下のお子さんは受入れができずに他の園を紹介させていただくという状況があります。先ほども出ました人材確保の問題もありますが引き続き努力をしていきたいと思っています。

こども家庭センター長 2つ目のさるぼぼタッチの不具合について、ご連絡はこども家庭センターにお願いします。不具合の状態を伺い、委託先に解決策を確認します。

市民活動部長 交通手段について、公共交通の部署にいましたので代わりに回答します。清見町大原地域について土日の部活動に対応できるようにのらマイカーのダイヤを見直したいというお話があり、地元の皆さんと協議をした結果ダイヤを見直した事例があります。そのときは中学校まで行けるような見直しでしたが、状況が変わってきたということであれば、同じように地域の皆さんと話し合いをした上でダイヤの見直しなどを検討していかなければならないと思います。誰かのための便になると誰かが使えなくなるという様々な問題もあるため、地域の皆さんと話し合いをしながら進めていきたいと思っています。

協働のまちづくりの人材育成については、地域を担う人材も不足しています。なり手がないだけではなく活動する人もいないという中にあっては、様々な人に担っていただけるような意識を持つことが重要だと思っています。各まちづくり協議会とはそのための学ぶ機会やきっかけ作りの取り組みを少しずつですが始めています。地道な取り組みにはなりますが、地域を担っていただくまたは活躍いただける人材を育成していきたいと考えています。

学校教育課長 部活動の地域移行に対する支所地域のバス運行等については、部活動地域移行の進捗状況等も踏まえ、どの時間にどのようなバスが活用できそうかといった調査を今始めたところです。その結果を踏まえてバスをどのように運行していくか検討していく予定です。

教育長 部活動における移動については、市長とも話しましたがスムーズにいきいたいという思いがあります。例えば荘川中にはバスケット部がなかったけどクラブになるとバスケットをすることができるといった、支所地域の方が今までできなかった部活動に参加できるようにするためにはアクセスやバスが大事だと思っています。のらマイカーに限らず、休日の部活動のために朝昼晩運行することが大事だと思うので検討していきたいと思っています。また、中学生だけではなく高校生も一緒に活動できるようなことができないかといったこ

とも考えていますので楽しみにしててください。

丸山委員 休日に運行されない時間帯があることで外出できないこどもがいたり、今日は部活はお休みするといった参加しないこどもも出てくると思いますので、配慮いただきありがとうございます。

白田委員 今年度の取り組みの中で、ひだ財団と連携した取り組みがいくつかありますが、初めてのことでうまくいかないことや、逆にうまくいっているということがあると思います。来年度も引き続いて連携されていくと思いますが、現在の状況を教えてください。

若者・女性活躍推進担当監 今年度は、若者活動と市民活動についてひだ財団と一緒に取り組んでいます。若者活動への支援については、ひだ財団が窓口となって活動の資金提供や伴走支援を行っています。活動する方にとって近い存在で伴走していただけるということで、活動もしやすくなっていると聞いていますし、財団独自の資金調達についても財団の方で準備を進めていると聞いています。

野崎委員 生まれ来るこどもたちへの支援として、2ページの10番の助産師相談や、3ページの12番にある産後ケア事業など丁寧に対応されていると思います。助産師相談については、令和5年度の成果として予約不要の相談としてことで利用者が増加したとあり、話しやすい環境を整えていることは、これから妊娠をしてこの地でこどもを育てていこうという方にとってありがたいことだと思います。令和6年度の取り組みに「必要に応じて保健師、助産師による訪問支援を併せて実施する」とありますが、この部分について詳しく教えてください。また、産後ケアに対しては、医療機関への宿泊や通所といったサポートもされていますが、私も関わっている岐阜のマタニティクリニックでも行っておりとても安心されています。令和6年度は拡充事業として里帰りなどによる市外での産後ケア事業利用料を補助するとあり、その点もありがたいと思います。課題として利用者が大幅に増加したときの受け皿が心配とありますが、全国の訪問看護ステーションにおいて産後うつの方への訪問の依頼が増えており、医療保険上も認められています。そういった新しい分野の既の実施されているサービスにも視点を向けてもらい、様々な方向から大幅に利用者が増えたときにも対応できるような体制づくりを今後も続けてほしいと思います。

もう一つは1次予防の大切さについてです。12ページの特に意識してすすめるべき点の⑫に「健康意識を高め、自ら健康を守る力を身に付けること」とありますが、身に付ける力というのはこどもの頃から大事なことだと思います。特にこの4年間は、コロナウイルスに対してこどもたちが神経質なほどに手洗いなどの感染防止をしてきましたが、自分の免疫力を高めるためにはしっかりと睡眠の確保や食育が特に大事だったということ、学校や教育委員会が皆で話し合って支援をしてきました。そのような取り組みは自らの健康を守る力を身に付けるというところを捉えていると思います。また、81番の中学3年生および高校2年生の健康診断の受診について、健康診断を受診することは大事なことです。体だけではなく、思春期の心の健康への支援をするために医療との連携をどう

していくと良いかということをおも教育長ともよく話しています。こちらについても今後考えてもらいたいと思います。子宮頸がんワクチンについては接種率がかなり上がりました。キャッチアップ接種は令和6年までですが、終了後のがん予防の接種は今後どのように考えているか方向性を教えてください。

こども家庭センター長 妊産婦へのフォローについては、令和2年度から助産師に関わっていただくことが多かったことで、従来の保健師だけの指導だけでなく、幅が広がって丁寧な対応ができています。ただし、妊婦さんの対応可能な医療機関は、現在のところ2院だけに限られていますので、地域でどうサポートしていくかが重要だと思います。その中で、現在助産師会の方々から会として何かできないかと案をいただいていますので、そこも含めて体制を整えていけるように準備していきたいと思っています。

医療保健部長 子宮頸がんのキャッチアップ接種については、7月に個別に案内を、8月には広報への掲載、またSNSでの周知も行いました。接種件数は、7月は84件ぐらいの接種があり、4月5月は20件台でしたので増えている状況です。現在は9月までに接種するよう勧奨をすすめています。その理由は3月までの6ヶ月の間に3回接種することができるからです。また10月以降であっても1回、2回の接種ができますので、そういった周知をしていながら、少しでも接種率を上げていきたいと考えているところです。

野崎委員 助産師の活用については、助産師の中で定年退職された方々が「何かやりたい」とおっしゃっていることを耳にしていますので、ぜひ活用の検討をお願いします。また、子宮頸がんワクチン接種率については、受ける受けないの判断はご家庭や本人がそれぞれ弊害等も理解しながら決めるものではあります。情報提供が大切だと思うため、今回しっかりと行っていただいた結果が接種件数に表れていると思います。

桑谷委員 20ページ131番の金森長近のマンガ製作について、生誕500年に対する市役所の動きが非常に弱いため、商工会議所に無理を言って民間による「金森長近と城下町文化による地域活性化推進委員会」を立ち上げ、現在クラウドファンディングにより増刷を行っています。文化財課の方にもメンバーとして入ってもらっていますが、市役所の協力がなかなか見受けられないことを実感しており歯がゆい思いがあります。土産品も全て民間の我々が考えて作り出しており、市役所の手は全く入っていません。漫画が完成したときに、このコンテンツは非常に有効なのでこれを今後活用していくようにと事あるごとに言っていました。が、予算へも反映されなかったというのは私としては不満があります。500年という節目の年に、市の中に雰囲気がないことや、高山はコンテンツが多すぎるためなのかそこまでの熱心さがないと感じました。昔は商工労働部と観光課は一つの部署で、商工と観光の連携は密接な感じがありましたが、プロモーション戦略部に移ったことにより外から見ていると観光部署が事務的になりつつあるなと感じます。なかなか動きが鈍いため無理やり商工会議所の方で取り組んでいるところです。予算も無いので、現在はクラウドファンディングにより一生懸命に資金を集めており、現在140件108万円の支援

があり、来週あたりには城好きのブログへの仕掛けを準備しています。市役所全体の熱量というものが全く見受けられないことが残念でなりません。どちらかというと邪魔をするようなことをしてきます。つい最近では、クラウドファンディングを行っている最中に、市は無料で漫画を見ることができるウェブサイトを紹介していました。今のタイミングでなんてことをしているのかと頭を抱えました。クラウドファンディングが終わった10月に紹介するならまだしもこのタイミングでやるのかと。正直私の愚痴ですが、横の連携も何も無いと思います。どちらかというと漫画の権利関係を気にして動きが取れないということはあると思いますが、漫画家の方の了承を得ておりほぼフリーな状態で使えます。ですのでもっと何かしてもらいたい。頭でだけ考えて行動に移していないことをこの場を借りて愚痴を言いました。

市長 金森長近は地域を代表するひとつの大きな資源でもありますし、象徴みたいなものでもあるため、プロモーションも含めて私の方から担当に伝えたいと思います。他にはよろしいでしょうか。それでは次の議題に移らせていただきます。それでは議題2「こども計画（仮称）の策定に向けて」について説明をお願いします。

こども政策課長 （資料2を説明）

市長 今年度からこども未来部を作り、あえてひらがなの「こども」としました。国がやるからということではなく、住んでいる方々が未来に向かってこどもを育てることができるように、また、移住のためのこども政策という視点ではなく、住んでおられる方々の幸福度をあげていく。計画にはそういった思いを打ち出したいと思っています。今日は委員のみなさんのご意見や思いなどをいただきたいと思います。よろしくお願いします。

白田委員 計画の勉強会の全部の回に出させてもらいましたが、参加されている方はそれぞれの回のテーマに対して熱心に真剣に話し合いをしますが、参加者が固定化しているため、どうしてもそれ以上に広がるということが難しいと感じました。また、もう一つ勉強会の中で感じたのは、どの回でも参加者の方から教育がとても大事だという話が毎回のように出ました。私は教育委員としてではなく障がい児の母親として参加させてもらいましたが、お話を聞くたびに襟を正すような、そのような気持ちで参加させてもらいました。こども計画を策定するにあたっては、より広くお母さん方の意見を得られるにはどうしたら良いのかと思う中で、夏ぐらいに集いの広場にこども政策課長をはじめ市の職員さんが様子を見て来てくださるということがありました。お母さんたちは市役所の人と直接お話できる機会というのが無く、支所地域での福祉の意見交流会は夜にありますが、参加される方は長寿会の方や町内会長さんなど決まった方が多いです。若いママが発言する場が本当にないというか、行きたくても夜の時間にこどもを置いて参加することができないので、そうやって集いの広場などの現場に来てお母さんたちの声を聞いてもらえるというのは心強いことだったと思います。お母さんたちもすごく良い時間だったとおっしゃってましたし、コーディネーターの方もこういった貴重な機会を設けてもらいありがたかったと

おっしゃっていました。そうやって現場に出向くことを重ねていくと、この計画が良いものになっていくのではないかと思います。

市長 ありがとうございます。集めるというよりも出向くということですね。結果的には広いお話が聞けるということだと思います。

こども政策課長 白田委員には数多くの会に参加いただきありがとうございました。ご指摘のとおり、メンバーが固定してしまったことは私どもも感じていまして、オンラインでも参加できるようにしたり、SNSで周知をしたりいろいろとやってみました但下手な部分があったと反省しています。3,000人対象の市民アンケートも行っていますし、こちらから出向いて意見交換をやりますと呼びかけてもいますので、またこういう機会を作っていきたいと思います。

こども未来部長 校長会にもお願いし、希望の学校にはなりますがこども自身のご意見を伺うことができないか考えているところです。全庁的にも様々な政策の実施にあたってはこども自身の意見を聞くように進めていきたいと思っています。

白田委員 22ページの新しいこども計画の対象範囲について、「障がい児支援」とありますが、「障がい児者」としてほしいです。こどもの対象が広がっていることと、自分のこどもが高校生になってここへ入れてもらうためには「者」をつけてもらえるとありがたいです。

長瀬委員 27ページに「こどもの居場所」とありますが、居場所というのは物理的な場だけではないという捉え方をしてほしいです。例えば自己存在感や自己肯定感を実感させる取り組みもいわゆる居場所作りなんですね。それに対しては心の居場所作りという言葉は良く使いますが、その視点を大事にしてほしいと思います。心の居場所作りというのは、一人一人に合った活躍の場や機会を作るということも一つですし、結果だけではなく取り組んだプロセスを正しく評価する、そういう環境があることも大事な視点になると思います。そういう点でこの居場所作りを進めてほしいと思います。30ページに、「参画の仕組みづくり」と書いてありますが、まさにここです。ここを充実させることによってこどもたちが自己肯定感や自己存在感、自己有用感といったいわゆる心の居場所を持つことができるようになると思いますので、その辺の充実を居場所づくりと絡めながら進めてほしいと思います。

こども未来部長 こどもたちが活躍する場も十分考慮しながら、また教育委員会とも相談をしながら計画を進めていきたいと思っています。

市長 中学校、小学校、保育園に行ってこどもと一緒に給食を食べる機会がありますが、私が見るこどもさんは元気な方ばかりで、悩んでおられるこどもや不登校気味の方々にはなかなか目にする機会はないため、こちらから出かけていってお話を伺うことは大切なことだ

と思います。今後も様々なところでかけて行き、お声を聞かせていただきたいと思います。

他、よろしいですか。それでは次の議題3に移ります。説明をお願いします。

学校教育課長、教育総務課長 (資料3を説明)

市長 義務教育学校の中に保育園が入るということで私自身とても期待をしています。今回の構想にある特色のある教育を提供することで、荘川地域だけではなく高山市内の他の地域からも通いたい、また市外からも通いたいと思っていただけるような学校にできれば良いと思います。特に特認校については、再来年度から実施できるように進めてほしいということを教育委員会にお話ししています。

私から1点お願いがあります。外国語を学ぶことについて、外国語を何のために学ぶのかというと、コミュニケーション能力もあれば、様々な文化や異なることを習得できるなど様々な目的があると思います。外国語はそういった思いを叶えるためのツールの一つだと思うため、何のために学ぶのかという部分を深掘りするような、その部分がわかるような構想にしてほしいと思います。また、朝日高根についても同じような動きがあります。こちらについても義務教育学校を進めていく中でなるべく早い時期にしたいと思うことと、こちらでも特色ある教育を実施していただきたいと思います。委員の皆様からご意見やご質問をお願いします。

教育長 なぜ外国語を学ぶのかという点について、外国語を中心に学ぶということは喋らなくてはならず、喋るには元になるアイディアを学ばなければなりません。そのアイディアというのは地域の文化や産業、人の良さなどであり、そういったことを勉強しないと外国語は喋れないので、外国語を勉強することによって、様々な文化や自然、産業を学ぶことができるという良さがあります。このことは地域の検討委員会や地域の方にもお話をいただき、私達も一緒に勉強できるのかといった期待もいただいています。表現に弱さがあるので工夫していきます。

長瀬委員 学園構想はわくわくできる内容がたくさんあり、かつ具体的であるため児童生徒は新しい学校に夢や誇りを持ってくれると思います。外国語教育については、以前から保育園児には行っていましたが、小学校低学年で途切れていたことが課題でもありました。今回、外国語カリキュラムで、前期後期の連続した教育が展開できることを期待しています。この外国語教育については、以前にもこの会議において高山市は国際観光都市であるので、高山市の学校教育の柱の一つに外国語教育をしてはどうかと発言したことがあります。今回の外国語教育が、荘川さくら学園だけで終わるのではなく、そこでの成果が高山市の他の小中学校の教育に広がっていくことを期待しています。

また、特認校の指定については、攻めの学校づくりという観点からも大変期待しているところですし、荘川地区は様々な資源が豊富にあり学園構想も大変魅力的ですので、現在の児童生徒の心情に配慮しながら大いにPRをしてもらいたいと思います。ご存知のように

県内にも小規模特認校が6校、既に実施されているので、その辺の情報収集もしながら良い形でスタートができるように検討をお願いします。

市長 他、ご意見よろしいでしょうか。委員の皆さまには今後も推移も見守っていただきますようよろしくお願いします。

それでは次に、議題4に移らせていただきます。個人情報を含む内容ですので、「地方教育行政の組織および運営に関する法律」第1条の4第6項ただし書きの規定に基づき、これより会議を非公開としたいと思いますが、これに異議ありませんか。

各委員 (意義なし)

市長 異議なしと認め、そのようにさせていただきます。

(個人情報保護のための非公開部分)

市長 ただいまより、公開に切り替えさせていただきます。

以上で本日の議題は全て終了しました。今日は委員の皆さんから少し耳の痛い話もありましたが、貴重なご意見をいただきました。それぞれの部署に伝え、改善すべきことや取り組むべきことに対応させていただきたいと思います。特にこれでご質問もないようですので進行を事務局に戻します。

総合政策部長 以上をもちまして、令和6年度第1回高山市総合教育会議を終了します。